いはき

毎月三回八日十五日廿五日發行
定價一部金一錢五厘外二郵稅五厘
郵券代用一割增
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地
編輯人高木朝重　發行人吉田禮次郎　印刷人高城寛藏

第二十號

言論

磐城育英會の規則に就て(一)

在京　白雲峰

磐城育英會の成立を聽て吾々學徒は大に喜び且つ此の事業に直接間關係せらるゝ人々に對して大なる感謝を拂ふのである、然し、吾徒の喜ひ且つ感謝を拂ふといふのは何も自分等が利益を受けやうとするからではない、唯之れが爲め地方の英才にして學費に窮するものをして其の志を全ふせしむることが出來て、獨り吾地方の爲めのみならず、廣く吾國に對して如何に大なる効果を致すや知るべからずであるからである、由來吾磐城地方は人物が少ないと彼の原坦山、祐天和尚が如きは暫く措き竹帛に名を垂れ、又は現代に名を走せて居るものとては數ふるに足らぬ程無いのである、會津地方はどうである、現代に於ても錚々たる名士指を屈するに遑がない程ではないか、吾地方に人物の無いのは實に繼新前平藩に於ける教育事業が振はなかつたからで會津地方は吾に反して居つたのである、此の点に就ては吾人は當時の祖先に對して大に遺憾とせねばならぬ、

教育事業の振不振が後世に及す影響は此一例に徴しても明白で、其の忽諸に附すべからざることが適切に感せらるゝ、今日では中學校が出來女學校も出來て大分教育機關が備はつて來たけれど女學校は兎に角、中學校を卒へたものは多くは高等教育を受けんとするものであつて、吾地方に各種の高等教育の學校が設立せられない限り、是非共他郷へ笈を負ふて出ねばならない、其には非常の學費が入るといふので大なる不便障害物が有る、然るに客年育英會が組織されて此の障害物が一部分なりとも取除けらるゝ樣になつたのは吾人の喜びに堪へぬ所である、然し、育英會規程第一條より第四十六條に至る、詳細の規定を通讀するに大体に於て吾人の贊成する所であるが、中に一二首肯し難き点がないではない、少しく卑見を述べて育英會關係諸氏の參考に供したいと思ふ、

先づ、第一條に(前略)官公私立學校に在て修業するものを保證するを以て目的とすとある、會の立意からいふも事業の性質からいふも、必ずや斯くあらねばならぬ、目的は人才を養成するに在るのである、凡そ人物は獨學者の中よりも傑出するこゝあるが如くどの方面よりも出る、決して一定の學校より出るものと限つたものでない、されば第一條に於て官公私の別を問はないのは實に事業の主意に叶ひ斯くして始めて會の本來の特色を發揮し最終の目的を貫徹するこゝが出來るのである、然るに何ぞや學校を限り、終に狹くして至つて僅少なる第六條に至り終に狹くして至つて僅少なる第一條に於ては吾人大に驚き且つ歎せざるを得ない、

第一條には立派に、官公私立と言ひながら、此の條に至つて何が故に官立にのみ限つたのであるか皆目其の理由が解せない、會員諸氏が無意味に無意識的にこんな制限を設けたといふのならば、早速斯る規定は全然撤去して貰ひたい、然し社會に相當の地位を保ち、地方に於ては兎に角上流に屬すべき諸氏が無意味に無意識的に斯る規定を設けたればこそ受取れる話でない、何等かの理由があるであらう、憶測かもしれないが、此の規定は實に諸氏中の頑迷なる思想より出たるものであると思ふ、

官立學校に非ざれば學校に非ず、修業する場所は官立學校以外に存在しないと、頑迷なる思想は詮じ來れば斯くの如くなるのである、然らば敢へて問はん、何故に修業は官立學校に限るかと、答へて是れ官立學校は其の設備全く、監督嚴重なるが故なりと言ふであらう、然しかゝる曖昧なる茫乎たる理由は理由とするに足らない、設備の完全な學校といへば恐らく此の狹く日本國御如才も無からんが、僕の短き經驗より夢物語を致せしに過ぎず、是實は相思の情、自然らしめたる者、若貴意に反する点あらば、只打明けて僕に警戒を與へられよ、之實に貴兄に切に望んで已まざる所に候。御卒業の地に嬉すべき將來相携ひて互に光榮ある目的に達すべき好伴侶たらん事を乞ひまつる次第に候、追て御祝として何か愚妻より差上ぐる筈に候間御落手被下度願上候。御兩親樣其他御兄弟皆々樣に宜しく願上候。

雜錄

故中村富哉君の書簡(二)

在奈良　山田生

今日童慶より日本入尋ね參り、久々にて日本語を用ひて寛る〳〵御話申し候、此地に參りてより四人目の日本人に御座候、國語の價値は外國に來りてより始めて知らるゝ事に御座候、申上度事共山々あれど今は略し申候(中略)

當地目下九十七八度或は時に九十度以下の時も有之候、去れど不相變頑健、日本内地に居りし時よりも、一層身体の健康を增し候樣の心地致候、御安心被下度候、御地も定めし熱燥くが如くならん、折角國家のために御自愛專一に御座候、皇曆八月八日

泗川著順慶府中學堂　中村富哉

◎西部支那に於ける地理歷史の觀察

左の書狀は明治卅九年十二月廿日、泗川省より某氏に宛て郵發したるものにして古代同地方の地理歷史及現今支那人教育の概況を知悉し得べし、君が觀察の鋭利なる到底常人に及ぶ所にあらず

拜啓先以御勇健御勤務の企て及ぶ此事十二日御座候扨本年遊ばされ愈々切迫致候御事大賀に候日を餘すのみも候、定めし繁忙にて御暮や正月どころには無之候、支那の方は至て呑氣にて御暮や正月の一所に參りたりとて所謂ひ盆や暮や正月どころには無之候、支那の方は至て呑氣にて御暮や正月の一所に參りたりとて所謂……併も此内地のリツアヒンク……には、何等の影響も感じ申さず、スリーピングホローの其儘別なる天地といふ次第、或は桃源の境界か上古無爲の時代かにも至るべきが、兎まれ此國此地の正月は始めて御報導致度候(未完)

雜報

磐陽詞苑

白楊の疎ら大葉を韓人の蹠馬に乘り行く影長か見渡せば怪しうまでも靜まりて海は神秘の朧月夜や　菊地珠郷

福原や公子微行の春の宵被衣の人は少しれくれほのの紫の小雨して御簾も巻き琴の音のよき笛吹けば憂きことゞの集ひ來る胸の惱みや雨の夕窓　倉田荷愛

春の日や何れをあてに辿らまし花さく野邊か鳥なく山か　全

春の野に萠ゆる若草若草の思ひに似た春景色浮かれ出でたる人のごとそこも知らず我思ひ廻る　大鳴一郎

麗人の花夢と見し夕雲に悲しき思ひ骨せて　鹿鳴醯骨

川添の夕月の夜を櫻つけて柳の鞭に唄ふ馬夫よき　全

風わたる港の眞淸水影うけて掬へば匂ふ岸の梅かな　豊之舍

山川の流れの末も匂ふまで谷間の梅の今盛りなり　全

春雨のふる野の梅の一しづく袖にうけなん香しむも　全

冬春亂題

冬されて門田に湧くや鉄氣みづ　珠郷

貧僧やねぎ喉嚙なめてとし忘れ　全

寒きくに霰たばしるつき夜かな　全

寒菊と南天といけしるつがめかな　全

屠蘇の醉羽織かぶりてまるね哉　全

雛市やたれに似し雛買ひ行かん　小羊

亡き姉への寫眞もまじる雛のたな　全

いにしへの桑華のゆめや内裏雛　全

雛につく〳〵物思ひやふる引き潮のさゝら波立つ春さむし　秋江

白根樓掘るまるぼ防風の貝はあさし　全

馬槽は詫びし餘寒のむしろかな　全

鐘鍾は錆びし餘寒のかうま屋　同

凧の骨けづる餘寒のはるさむし　同

岩雛刻む五百羅漢やはるの在所　茂香

雛つる在所麥畑のはなの　同

雲雀つるあるみづぬるみけり　同

柳ぶる新川のみづぬるみけり　同

春めや船引き上ぐる砂のうへ　同

雲雀小松原からあがりけり　同

春はうりの戻る小路やよこぎり　柳巷

春季亂題募集

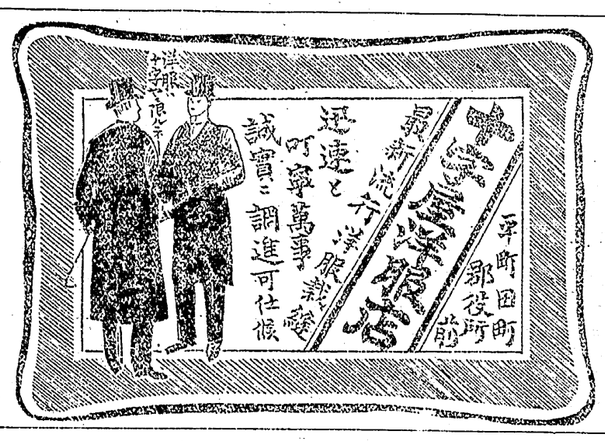
讀者論壇

◎番頭使用改良　西丸珠雲

文明は農に工に其革新を速めゝ來る商界のみ未だ奏を脫せざるの嫌あるは歎すべき急務なり開說當時三丁目某店乃番頭制度の如き最も故良なる六年未俸給の制なるアヽ夜酷主酷頭使されたる者深く味ふべし人間勞に代ゆるの欲望執店員なくんば叶はず徒にコキ使ふに已の欲望を酬なみ滿たんとするは非なり速に其使用法を改良せよ

◎ホーム貯金會　四倉　新妻生

我四倉仲町にては舊一月一日よりホーム貯金會を設置したり該會は寄附金を積立て其利子を以て新聞雜誌の縱覽所に設け又毎月例會を開き演說談話等を催し以て精神の修養智識の養成を計り町勢の發展に資せんとするものなるが吾人は熱心に其成功發達を祈る



正札引おし
吳服太物
洋織物類
御祝儀物一式
シヤツ、インバネス
東コート、洋傘
合鹽屋吳服店

米國大博覽會金牌受領
第五回内國博覽會銀牌受領
登錄商標
日本
開運
最上醬油
釀造元　茨城縣高濱町　羽成卯兵衛
磐城平町長橋町　特約販賣店　篠塚商店

赤煉瓦
屋根瓦
平町紺屋町　佐々木忠右衛門
好間村關ノ上　佐々木煉瓦製造所
平羅村鶯内　佐々木瓦製造所

平町新屋敷　所長　黑木房教

主任　白土龜吉

遠藤齒科醫院　口腔病　平町五丁目

同出張所　湯本佐波古館　四ツ倉町字本町

平町銀行兼分院

寄書

小學校基本財産積立に就て(一)

靜修堂主人

本立而道生根本鞏固ならずして其の枝葉の繁榮するものはあらざるなり故に縣下なり郡市團体なり又は町村自治區なり若くは小學校なり之れか繁榮を期さんには其の根源を固うするに如かざるなり根源とは何ぞや國家の整理と財源の確立と之れなり如何なる團体にても之れか永久の繁榮を欲せは充つ財政の基礎を確立するにあり彼の米と云ひ英と云も何故に强勢を世界に擅にするか他なし之れ財政難を感せざるにあるなり

現今に於ける各市町村自治區の狀態を聞くに殆んと財政不整理にして經營難を告けさるなしと之れ當路者其の人を得さるに歸すべし斯る時代にありては監督者たるもの徒に啓發的より若くは誘導的より寧ろ威壓的に斷々乎として嚴重なる督勵監視の下に町村の責任者を選良し督勵し姑息の弊風を打破し財政を整理し財源の基礎を鞏固にし以て大に爲す所あるにあらされは嗚呼現下の自治制度を如何せん哉今や縣内に於て眞に自治制度と云へる眞味を解し局に市町村の責を荷ひつゝあるもの夫れ幾何かある或は恐る十指をも屈するに至らさるべきを豈悲しまさらんとするも得べけんや之れ教育ある殊に修養を積みたる人物の乏しきの致す所にして所謂事理に通せざるに外ならさるなり

抑國家の安固は何に基すべきか中央政府より將た縣郡の施政方針より寧ろ市町村自治制度の整否如何に歸すべきなり故に今日の急務とする所は職責を市町村の長に負ふものゝ選任にありと大聲疾呼するものなり呼何事を事理に通せさるものゝ代名詞として市町村吏員を以てするものあり之れ或は酷評にあらさるべきを哀しむものなり

其れ斯の如くなるを以て多くの町村は何等の主義なく方針なく碌々は乎として照代を蔓の如くに過しつゝあり然れとも時代の發展は駿馬の如く進んで止ます市町村自治制度の進歩は駑馬の歩みにだも尙及はさるか如し時に或は少しく名の現はれたる市町村ありとするも多くは表面を粉飾したるに過きすして其の内容實質に至りては何等の立脚点なく恰も蜃氣樓の感あり滔々たる模範自治誤或は若之れなるにあらさるなきか

予茲に多きを望ます唯市町村自治制度を種苗を購入配附七、種苗配附　改良普及の必要を認めたる執行者たる當局者を選挙すると市町村是を確定すると之れなり而して此等に關して殊に論せんと欲するものは教育にあり而して教育上諸般の施設は一に資金に賴らさるべからすと之れ小學校基本財産積立と云へる題の下に聊か陳述する所あらんとす

雜報

◎最終の石城郡會

十日議場には昨年の臨時郡會に於ける役員選擧違法無効云々との緊急動議が突如として政友會派の首領株なる木村清治氏より提出さるゝや議場甚だ騷然同派の傍聽人たる某々氏等が議長に肉逼するなどの奇觀を呈せしも遂に横内直温氏の動議により五名の委員を擧げて擧實の調査をなすことに決して別れ十一日は十時半より開議議長は昨日の決議案に對し歳入經常部中第二款各町村分賦額に於て六百五十二圓五十九錢と增して歳入經常臨時總計を三万四千九百五十六圓六十五錢五厘とし歳出經常部にては第一款會議費を一千三百九十七圓六十五錢に增し第三款士木費中道路橋梁管守費に百四十一圓二十二錢を增して九千百七十九圓十錢となし第五款衛生及病院費中看護婦養成費を七百四十七圓に增し臨時部に至り第一款教育費中石城女學校補助を千八百圓に減じ磐城郷友會補助百二十圓を撤回して平教育部會補助金に百圓を增したる外數項の增減をなしたり精細なる報導は次號に於てすべし

◉郡吏員異動　石城郡農業技手宮元勘兵衛氏は兵庫縣に同郡吏員隈元三治氏は北海道廳に何れも近日中榮轉する由

◉勸業統計表の催促　石城郡役所にては郡内各町村役場に對し勸業統計表の提出に就き再三督促するもなほ其運びに至らざる町村多く大に困りる由

◉石城郡農會の事業(二)

七、種苗配附　改良普及の必要を認めたる種苗を購入配附す

八、農蠶講習　農蠶講習所を適當の場所に設置し大に農蠶の改良發達を圖る

九、稻撰拔競進會　稻作の改良奬勵を期する目的を以て部落若しくは町村農會をして開催せしめ而して町村に屬するものに對しては審査に關する費用の支出及褒賞をなす

十、同窓會補助　郡農事講習生同窓會へ補助金を給し大に同窓生を活動せしむ

十一、町村農會補助　各町村へ共進會視察費として一農會に對し金五圓擧務員費として金五圓つゝを補助し大に村農會の活動を圖る

十二、農事功勞者表彰　農事功勞者褒賞規程により農事上功勞ある者を褒賞す(完)

◉平役場處務規程(一)

石城郡平町役場にては明年度より實施するため處務規程を定め知事に認可申請中の處過般認可せられたるが幾分か町民の參考ともなるべければ逐號報導すべし

第一章　總則

第一條　本町役場の事務は之を二課に分ち課内に係を置き係に主任を置く

第二條　各課長を置き助役若くは書記を以て之に充つ課長は町長の指揮を受け課中の事務を監督整理す但特に課長をして事務を分担せしむる事あるべし收入役事務手續は總て本規程に準據すべきものとす

第三條　各係員は各其分擔事務を調理す但特に事務の細目に依り分擔を命ずることあるべし

第四條　特別の事務又は臨時取調を要する事ある時は特に委員を設けて調理せしむる事あるべし

第五條　第一課に左の七係を置き事務を分擔す、文書係、議事係、庶務係、兵事係、學務係、農商工係、衛生係

第六條　第二課に左の六係を置き事務を分擔す、地理係、國費係、縣費係、町費係、土木係、財務係、

第七條　前條各係に屬する分擔の細目は別に町長之を定むと雖も細目外の事項は種類性質に依り其係に於て處理するものとす

◉村吏異動　石城郡大野村長粟野善佐氏は病体職に堪へざるため同郡川部村長田子長三郎氏は家政の都合上辭職し高崎千代之助氏は同郡大浦村助役に當選就職せり

◉各町村の貯蓄　石城郡内各町村の昨年度末に於ける勤勉貯蓄の結果を聞くに貯金の最も多きは小名濱町の九千百三圓にして泉の三千八百七圓之に次ぐ而して貯蓄米の最多きは飯野の二百十九石にして窪田の百四十七石鮫川の百四十三石鹿嶋の百廿五石等も比較的多き方なりと

◉撿閲臨時消防大

去八日執行の所其筋の都合によりて本日施行の事となりたる石城郡平地方の消防大撿閲に參會するは内郷、好間、高久、豊間、湯本、鹿嶋、夏井、小名濱、飯野、平、江名、澤渡、三阪、神谷、大野、平窪、大浦、草野、四倉、泉の二町十八ケ村の各消防組にして何れも十數日前より熱心に練習してあれば定めし良好の成績を擧ぐるならん因に本日參會する各消防組の小頭及消防手の員數は左表の如くにして三阪組の如きは夜半に出發八里の長途を參集すべしと

組名	小頭	消防手	組名	小頭	消防手
平	九	一六〇	小名	一三	二〇〇
飯野	九	一八六	湯本	三	一七六
夏井	一四	二〇八	鹿島	三	一三〇
豊間	八	一六一	三阪	二	四五
高久	九	一五一	澤渡	二	五〇
江名	一六	二六五	内郷		
好間	—	三四	神谷	—	二〇〇
					一五〇

此他の組は不明

◉郡農會豫算

先般例會にて議定したる石城郡農會明年度豫算は左の如し

收入	
第一款　雜收入	六四五、〇〇〇円
第二款　分賦費	五〇、〇〇〇
第三款　繰越金	一〇〇、〇〇〇
第四款　補助金	一、八〇〇、〇〇〇
合計	二、五五五、〇〇〇

支出	
第一款　事務所費	六〇六、〇〇〇
第二款　事業費	九七七、〇〇〇
第三款　會議費	三七、六〇〇
第四款　補助金	五四〇、〇〇〇
第五款　負擔金	二〇一、六〇〇
第六款　雜支出	五、〇〇〇
第七款　豫備金	一七、六〇〇
合計	二、五五五、〇〇〇

◉石城郡會雜觀

▲星グタンダ　議長の星氏はなか〳〵の名物男で酒氣紛々たる時の活氣は素張らしく威勢よく役員や理事者に喰て掛たものゝそうだが今年は自分から花嫁議長と稱し滑稽酒落愛嬌タップリにやつてのけグダンダの本色を表はさいのは感心々々而し不得要領の間に折々議員を烟にする所など一寸凄い

▲議場所見　無名氏なる風流人あり頃日の石城郡會を傍聽中俳想動けりとて報じ來る輕妙洒脫頗る面白ければ錄して無題錄に換ふ(編輯子)

議場所見　無名氏

▲凡々の案
窓の灯はほそし蛙の目かり時

▲新顔議員
提灯は持つに及ばず道たぼろ

▲某議員頻りに色鉛筆を動かす
種蒔やべに繪よすがのかみ袋

▲某議員曰はく
蕗の薹苦ければこそ珍らしむ

▲尻尙落つかず
兎もすれば尻尾怪む蛙かな

▲一波動くも、然も大勢既に定まる
さゞ波や霞む帆を見る磯の鼻

▲古參の惡戲
朧夜や戀猫にうつ棒ちぎり

▲れ土産を攫ばずや
折ればあちらなほよき枝や梅の花

▲流會の裏面如何
笹敗きし皿の海鼠や冴えかへる

▲誰の發案？
行きかでに蜂の巣にうつ礫かな

▲滔々たる逆流
まだ終へぬ治水工事や雪解水

▲其中にかゝる貴公子もあり
春の夜を三味線胸で戻りけり

▲懇親會
櫻人薪にせうと數へけり

▲閉會
鳴く蛙默り蛙も歸りけり

社告

▲本紙代金未だ御拂込なき方は帳簿整理の都合も有之候に付此際至急御送附下され度候

▲代金は小爲替にても五厘郵券代用にても宜しく又振換貯金にて東京市京橋區南八丁堀一丁目十九番地平陽社宛に御送附下されてもよろしく候但振替貯金口座番號は七四一に御座候

山田と寺本とは竹馬の友だ、相前後して便所に往きたいと言ふから許してやつた、モウ十五分にもなる、餘り歸りが遲い、あやしいから往て見た。

此春便所の脇の垣根に杉苗を植附けた、其小杉圍ひに三線の針金がある、甲端の杭に

二　見たまゝ

太綱や棒切れを以て打込み來るに流石の繁師の診斷書を添ひて其筋に告訴したりとの事なるが中に立ちて周旋する人もありて告訴は取下ぐべしといへば格別の事もなく纏まるならんと

◉刑事巡査盜難　去九日正午頃平町一丁目裏通りなる平署刑事巡査片平重松氏方に掛け浮いたる白浪あるを忍び入りて衣類金品を持ち去りたる由

◉戀の惱み　紫のゆかりの色の藤田裁縫女學校に數多弐部のはすの中に星山春二郎と云ふあり何某の學校に通ふ優男に思ひを掛け浮いた春の悲しみを忘れたる事もありしが此頃はどうしたわけか秋の扇と捨てられしかばあけ暮れ世のはかなさをかこちつゝ三度の食も進まねば何も知らぬ朋輩にも嗅ぎつけられうはさは耐火煉瓦の煙突よりも高しとの投書がひら〳〵舞ひ込みたり

するわけなれども當地の人は至て無頓着に唯貪る事をのみ勤むるため旅客や浴客も内心不滿を抱きつゝあるが如し溫泉組合なども少し奮發して客のために公園の手入れでもし又新聞雜誌縱覽所其他遊樂の設備をなしたらば如何と思はるれど夫もダメらしく海岸線第一等の好溫泉場も人が奮發せず土工職供本業なる者に落籍され過ぎし海岸線敷設工事の時花のた江戸を後にし當平町に流れ來り人の知らぬを宜い事にして何慶潛家老は父で御座いのなんで御座いのと嘯八百を並べ立て商町遠藤德藏長家へ借家せしも此仲間には有勝の飲む博つ買ふの散財に一つもいとも動きが取れず金には何の事だと云ひけること言ひ知らず可笑しかりけれ

◎嬉しくも床しかりしは去る年山の手の或女學校に數多弐部のはすの中に星山春二郎と云ふあり何某の學校に通ふ優男に思ひを掛け浮いたる春の悲しみを忘れたる事もありしが此頃はどうしたわけか秋の

▲四倉消防　は本月十五日に平町に至りて檢閲を受くる筈

▲大浦消防組　は四倉組に負けじに毎日のように練習し居れり金庭馬鹿は何れに歸るか

▲料理屋　大不景氣曰はく土地の若者も一人も上らぬ

▲床屋　二百餘名の消防手には六錢で刈込をやり

三四の兩日演習をして十五日には平町に至りて檢閲を受くる筈

◎戀の惱み　紫のゆかりの色の藤田裁縫女學校に數多弐部のはすの中に星山春二郎と云ふあり何某の學校に通ふ優男に思ひを掛け浮いたる春の悲しみを忘れたる事もありしが此頃はどうしたわけか秋の

明治四十年五月廿七日第三種郵便物認可

社告

▲本紙代金未だ御拂込なき方は帳簿整理の都合も有之候に付此際至急御送附下され度候

▲代金は小爲替にても五厘郵券代用にても宜しく又振換貯金にて東京市京橋區南八丁堀一丁目十九番地平陽社宛に御送附下されてもよろしく候但振替貯金口座番號は七四一に御座候

◉坊やの花籠（一）

平校　圓通　良雄

『家の坊やは話が拙でこまる』とは其母親より一般に聞く言葉なのだ、ナニ之は坊やが下手なのでは無い、話させ方が下手なのだ、即ち話させる其人が、教育技術的方面に富で居ないからだ。』教育を分ちて二とす、科學的方面の研究、技術的方面の取扱ひ、前者は扨置き、苟も社會人類に對し、國家に對して、善良にして有用なる人物を作り出すに、母が其固有の血液を劃ける、坊やを養育するには、後者の技術的方面の取扱方を知らねばならぬ、是女子の天性は女子に待ち、女子の社會に對する權利、社會より受くる尊敬の分る〻所で、是坊やの母として羨むべき、其母が終生の最大高尚なる任務である。』

既に坊やの母にして、此技術的方面の取扱法を知りて、坊やと對話せば、其話方の功果、火を見るよりも明かである、是話させ方が下手であるといふ解決である、今此技術的方面の一部分即話方を、私が本學年度に於て、當校の男尋一の初步教育に取扱ひたる、其實驗例の二三を左に示さうか、

一　口の話

可愛い坊やが入學してから廿日程、國語教授に『口』の題目中、目的『口』の用途を問うて見た

『アノネ、口は何をする爲にありますか』

『笑ふためにあります』

『笑ふ時には目で笑ひます』

『笑ふ時には頬で笑ひます……兩方の頬が凹みますから』

目的『口』の用途がトンだ所に飛び去た、口から口、目から頬、頬から凹み、坊やの頭腦には目的とか鏡圖とか、程度とか、ウンナ手狹な窮屈な、堅苦しい所の牆壁は築いて無い、ナンでも構はん、手當り次第、征伐してやるように出來て居るのだ

二　見たまゝ

山田と寺本とは竹馬の友だ、相前後して便所に往きたいと言ふから許してやつた、モウ十五分にもなる、餘り歸りが遲い、あやしいから往て見た。

此春便所の脇の垣根に杉苗を植附けた、其小杉圍ひに三線の針金がある、甲端の杭には山田、乙端の杭には寺本、今しも愉快そうに、會話を交換されつゝあり。

『モシモーシ、私の名前ですか、私は桜村健次郎と申します』

『ハハア……ハ、ハ……そうして……ハ……只今も校長先生から、た話が有たように思ひます……ハ、解りました……さようならチリーン、チリチリーン』

此坊やが電話交換の要旨は、昨日此校に着任した、松村先生披露式の場の光景だ

◉小名濱町通信

▲役場　名譽町長小野賢司氏可もなく不可もなく助役鈴木氏の熱心敏腕は定評あり其他收入役以下皆勤勉の氣受甚だ宜し▲學校　校長會田氏は温厚篤實の君子人にして學區内の信用厚く首席訓導篠山氏又よく切て廻はし他の教員一同兎角の評なし▲消防　夜警に從事しつゝある消防手の熱心又非常にて町民は何れも其勞を感謝し居れり▲駐在所　よく其職務を守り好評あり但し某々二三の曖昧茶屋には少し注意して貰ひたしと云ふ者あり▲製鹽所　鈴木製鹽所にては工事成りて製鹽に着手したるが鈴木氏最初の目論見に遂はず良好の成績を收め得べき模樣なり小名濱製鹽株式會社の製鹽成績も頗る宜しく一ケ月十五万斤位づゝ產出せり▲一般景氣　舊正月には少し引立ちしも其後又々沈滯し料理店なども至て閑散にて藝妓は半ば御茶挽に暮らし其外一般商店も引立たず

◉湯本より

東北第一の大煙突を有する當驛も大火災以來裝飾振はざりしが昨年秋頃より旅館等も新築を終り町は一層美觀を增し浴客旅客等の入込む者も漸く加はりたれど火災によりて受けたる創痍の全く癒ゆる迄には數年を忍ぶと共に一大奮勵を要

少詞林

金鵄勳章　平高二　吉田和吉

御國のために身も魂も、捧まつりて戰ひし、我忠勇の軍人の、胸にかゞやく金鵄章。』やがては吾も軍人と、なりてみかどの御爲に、いさぼを立てゝ譽れある、金鵄勳章授からん。』

日本軍人　仝　水野遜造

敵の彈丸雨霰、降りくる中を勇ましく、進む日本の軍人の、心石よりなほ堅し。』山より高き君國の、大御恵みにくらぶれば、塵一筋に似しいのち、などか惜まん惜むべき。』身は傷つくも斃るゝも、撓まず折れぬ心もて、守る忠義の軍人は、實に我國の誇りなり。』

◉小名濱町通信

▲役場　名譽町長小野賢司氏可もなく不可もなく助役鈴木氏の熱心敏腕は定評あり其他收入役以下皆勤勉の氣受甚だ宜し▲學校　校長會田氏は温厚篤實の君子人にして學區内の信用厚く首席訓導篠山氏又よく切て廻はし他の教員一同兎角の評なし▲消防　夜警に從事しつゝある消防手の熱心又非常にて町民は何れも其勞を感謝し居れり▲駐在所　よく其職務を守り好評あり但し某々二三の曖昧茶屋には少し注意して貰ひたしと云ふ者あり▲製鹽所　鈴木製鹽所にては工事成りて製鹽に着手したるが鈴木氏最初の目論見に遂はず良好の成績を收め得べき模樣なり小名濱製鹽株式會社の製鹽成績も頗る宜しく一ケ月十五万斤位づゝ產出せり▲一般景氣　舊正月には少し引立ちしも其後又々沈滯し料理店なども至て閑散にて藝妓は半ば御茶挽に暮らし其外一般商店も引立たず

◉湯本より

東北第一の大煙突を有する當驛も大火災以來裝飾振はざりしが昨年秋頃より旅館等も新築を終り町は一層美觀を增し浴客旅客等の入込む者も漸く加はりたれど火災によりて受けたる創痍の全く癒ゆる迄には數年を忍ぶと共に一大奮勵を要

◉泉短信

校長大内勇氏年の若いに似ずよく働けども長たるの器としては少し足らず大に修養して貰いたしと云ふ者あり達見村長に對し政黨上の關係より兎角の非難をなす者あれども頭と腕はたしかな者なり小林藏次氏も亦郡内の名望家なれど此頃は村會の外には頭を出さず一意家業に勉勵し居れり佐藤丈之助田子德治二氏の職務に精勤なる山崎民次郎小泉谷元二氏の鋭氣勃々たる何れも村内の珍たり其他の諸氏の消息は追々

四倉便り

▲四倉消防　は本月十三四の兩日演習をして十五日には平町に至りて檢閲を受くる筈▲大浦消防組　は四倉町に流れ來りし人の知らぬを宜い事にして何ども少し奮發して客のために公園の手入れでもし又新聞雜誌縱覽所其他遊樂の設備をなしたらば如何と思はるれど夫もダメらしく海岸線第一等の好溫泉場も人が奮發せずば地の利は何の役にも立たず困たものなり猶昨年中當地に宿泊したる二万三千百七十六人にして最も多かりしは八月の三千九十八人九月の二千八百四十一人之に次ぐ又遊廓に於ける娼妓の所得總額は八百九十圓にして一月の九十六圓四十錢が最も多く四月の五十八圓最も少し又當地遊廓に於ける昨一年間の酒肴料は二千三百四十五圓五十六錢によりたるが其中最も多かりし月は四月にして三百四圓餘に達せしが八月の如きは遊客二百七人に對して酒肴料は百二十五圓に過ぎざりしは一寸奇觀なり（憂世子）

◉泉短信

校長大内勇氏年の若いに似ずよく働けども長たるの器としては少し足らず大に修養して貰いたしと云ふ者あり達見村長に對し政黨上の關係より兎角の非難をなす者あれども頭と腕はたしかな者なり小林藏次氏も亦郡内の名望家なれど此頃は村會の外には頭を出さず一意家業に勉勵し居れり佐藤丈之助田子德治二氏の職務に精勤なる山崎民次郎小泉谷元二氏の鋭氣勃々たる何れも村内の珍たり其他の諸氏の消息は追々

◉毒婦花嫁おとう

花の色香で迷はせて贋ては其血其肉を食ひても尚飽き足らで其骨までもしやぶりし毒婦が畢は傳說傳話に見もし聞もする事乍らこれは又それにも發るとも劣らぬ毒婦法網をくぐりて悪手段悪奸計道德も人道も彼れの心には藥にしたくも毛程もなく思ふが儘に其悪手段を逞ふしても先は身分を省み名を慮ぢて勞を感謝し居れり▲駐在所　よく其職務を守り好評あり但し某々二三の曖昧茶屋には少し注意して貰ひたしと云ふ者あり▲製鹽所　鈴木製鹽所にては工事成りて製鹽に着手したるが鈴木氏最初の目論見に遂はず良好の成績を收め得べき模樣なり小名濱製鹽株式會社の製鹽成績も頗る宜しく一ケ月十五万斤位づゝ產出せり▲一般景氣　舊正月には少し引立ちしも其後又々沈滯し料理店なども至て閑散にて藝妓は半ば御茶挽に暮らし其外一般商店も引立たず

◉湯本より

東北第一の大煙突を有する當驛も大火災以來裝飾振はざりしが昨年秋頃より旅館等も新築を終り町は一層美觀を增し浴客旅客等の入込む者も漸く加はりたれど火災によりて受けたる創痍の全く癒ゆる迄には數年を忍ぶと共に一大奮勵を要

◉泉短信

校長大内勇氏年の若いに似ずよく働けども長たるの器としては少し足らず大に修養して貰いたしと云ふ者あり達見村長に對し政黨上の關係より兎角の非難をなす者あれども頭と腕はたしかな者なり小林藏次氏も亦郡内の名望家なれど此頃は村會の外には頭を出さず一意家業に勉勵し居れり佐藤丈之助田子德治二氏の職務に精勤なる山崎民次郎小泉谷元二氏の鋭氣勃々たる何れも村内の珍たり其他の諸氏の消息は追々

◉湯本より

東北第一の大煙突を有する當驛も大火災以來裝飾振はざりしが昨年秋頃より旅館等も新築を終り町は一層美觀を增し浴客旅客等の入込む者も漸く加はりたれど火災によりて受けたる創痍の全く癒ゆる迄には數年を忍ぶと共に一大奮勵を要

◉泉短信

校長大内勇氏年の若いに似ずよく働けども長たるの器としては少し足らず大に修養して貰いたしと云ふ者あり達見村長に對し政黨上の關係より兎角の非難をなす者あれども頭と腕はたしかな者なり小林藏次氏も亦郡内の名望家なれど此頃は村會の外には頭を出さず一意家業に勉勵し居れり佐藤丈之助田子德治二氏の職務に精勤なる山崎民次郎小泉谷元二氏の鋭氣勃々たる何れも村内の珍たり其他の諸氏の消息は追々

◉東坡の前赤壁賦を石刷にせる墨帖を求めて善しとか悪しゝとか爭ひ居ける人

東坡の前赤壁賦を石刷にせる墨帖を求めて善しとか悪しゝとか爭ひ居ける人

三面文藝

覺え帳（三）

瓢好瓢太夫

父は大事な人の子を預り教導感化すべき堂々たる教育者に有乍ら公用の金品を私消し妻子及び弟妹は平然として官廳の物品を窃切使用しまた其子ば小學校の生徒にして某官吏の金員を窃盜せるも父母叔甥は之を知りて更に譴責訓誡をも加ふる事なき悪むべき盜賊家族は警察署所在の平町に在り西か東かはた何處か其何人の家族なりやは其筋の探偵探を要す若し當局者にして相當の處置を取らずんば吾人斬魔の劍を揮て醜類をして白昼市中に出づる事能はざらしめんなり

盜坊家族

三面文藝

覺え帳（三）

瓢好瓢太夫

父は大事な人の子を預り教導感化すべき堂々たる教育者に有乍ら公用の金品を私消し妻子及び弟妹は平然として官廳の物品を窃切使用しまた其子ば小學校の生徒にして某官吏の金員を窃盜せるも父母叔甥は之を知りて更に譴責訓誡をも加ふる事なき悪むべき盜賊家族は警察署所在の平町に在り西か東かはた何處か其何人の家族なりやは其筋の探偵探を要す若し當局者にして相當の處置を取らずんば吾人斬魔の劍を揮て醜類をして白昼市中に出づる事能はざらしめんなり

讀者倶樂部

誰でも何でも投書は御隨意但中略

▲何が出るかと辻うら嶋のあけてたかしい投書國（苦足齋）▲種切れだか何だか平町三の三幅對は出なくなつたから今度は一つ石城郡村田子英吉飯野村猪狩文郎大浦村鈴木常之助艶福村長神谷村中野忠治赤井村草野三郎湯本村長壽男（先生）▲思ひ寢の替歌（酔月）▲獨り寢の、辛氣くさゝに閉の戸を、板の枝が、獨り居の、ぬしぢやないかと窓推して、見れば星めが、一つ飛ぶ（粹客）▲我黨の樂園は松月なり飲むも蒸らすも亦食ふも嬢ぐも何と云ふ者なし（中學生）▲萬年屋の姐さんはいつも田町の金鰐屋に居る（情夫こ）▲春ちやん十日の晩はれ樂みたごつて頂戴よ今せい）▲有名なる歌留多熱心家は古松傳次郎君なり（大工）▲代價を拂はないでナイフを買ふなんてソレは罪だよ學生さん（小僧）▲新玉屋の娘は山竹に迷はされて居るわ（四倉生）▲五丁目のたちかさんにも困るわ操さんにのぼせて人目も憚らないのだもの（れ兼）▲丸十の繁ちやんは頗る付の愛嬌もの（客）▲若旦那嫌な眼附でれ客を見力（二丁目）▲萩保は八面獅心だ（変際家）▲松さんはこり性もなく凄いわネー（中屋）▲丈くらべなら横で御出よ小そのちやん（才三）▲れ富さん平町は湯本とはちがいますから除りきれいでもない御顔を二階から出したり本をよむまねを見せびらかすなどは却て物笑ひとなるからた止めなさい（縣社

社告

▲本紙代金未だ御拂込なき方は帳簿整理の都合も有之候に付此際至急御送附下され度候

▲代金は小爲替にても五厘郵券代用にても宜しく又振換貯金にて東京市京橋區南八丁堀一丁目十九番地平陽社宛に御送附下されてもよろしく候但振替貯金口座番號は七四一に御座候

◉坊やの花籠（一）

平校　圓通　良雄

『家の坊やは話が拙でこまる』とは其母親より一般に聞く言葉なのだ、ナニ之は坊やが下手なのでは無い、話させ方が下手なのだ、即ち話させる其人が、教育技術的方面に富で居ないからだ。』教育を分ちて二とす、科學的方面の研究、技術的方面の取扱ひ、前者は扨置き、苟も社會人類に對し、國家に對して、善良にして有用なる人物を作り出すに、母が其固有の血液を劃ける、坊やを養育するには、後者の技術的方面の取扱方を知らねばならぬ、是女子の天性は女子に待ち、女子の社會に對する權利、社會より受くる尊敬の分る〻所で、是坊やの母として羨むべき、其母が終生の最大高尚なる任務である。』

既に坊やの母にして、此技術的方面の取扱法を知りて、坊やと對話せば、其話方の功果、火を見るよりも明かである、是話させ方が下手であるといふ解決である、今此技術的方面の一部分即話方を、私が本學年度に於て、當校の男尋一の初步教育に取扱ひたる、其實驗例の二三を左に示さうか、

一　口の話

可愛い坊やが入學してから廿日程、國語教授に『口』の題目中、目的『口』の用途を問うて見た

『アノネ、口は何をする爲にありますか』

『笑ふためにあります』

『笑ふ時には目で笑ひます』

『笑ふ時には頬で笑ひます……兩方の頬が凹みますから』

目的『口』の用途がトンだ所に飛び去た、口から口、目から頬、頬から凹み、坊やの頭腦には目的とか鏡圖とか、程度とか、ウンナ手狹な窮屈な、堅苦しい所の牆壁は築いて無い、ナンでも構はん、手當り次第、征伐してやるように出來て居るのだ

二　見たまゝ

山田と寺本とは竹馬の友だ、相前後して便所に往きたいと言ふから許してやつた、モウ十五分にもなる、餘り歸りが遲い、あやしいから往て見た。

此春便所の脇の垣根に杉苗を植附けた、其小杉圍ひに三線の針金がある、甲端の杭には山田、乙端の杭には寺本、今しも愉快そうに、會話を交換されつゝあり。

『モシモーシ、私の名前ですか、私は桜村健次郎と申します』

『ハハア……ハ、ハ……そうして……ハ……只今も校長先生から、た話が有たように思ひます……ハ、解りました……さようならチリーン、チリチリーン』

此坊やが電話交換の要旨は、昨日此校に着任した、松村先生披露式の場の光景だ

◉小名濱町通信

▲役場　名譽町長小野賢司氏可もなく不可もなく助役鈴木氏の熱心敏腕は定評あり其他收入役以下皆勤勉の氣受甚だ宜し▲學校　校長會田氏は温厚篤實の君子人にして學區内の信用厚く首席訓導篠山氏又よく切て廻はし他の教員一同兎角の評なし▲消防　夜警に從事しつゝある消防手の熱心又非常にて町民は何れも其勞を感謝し居れり▲駐在所　よく其職務を守り好評あり但し某々二三の曖昧茶屋には少し注意して貰ひたしと云ふ者あり▲製鹽所　鈴木製鹽所にては工事成りて製鹽に着手したるが鈴木氏最初の目論見に遂はず良好の成績を收め得べき模樣なり小名濱製鹽株式會社の製鹽成績も頗る宜しく一ケ月十五万斤位づゝ產出せり▲一般景氣　舊正月には少し引立ちしも其後又々沈滯し料理店なども至て閑散にて藝妓は半ば御茶挽に暮らし其外一般商店も引立たず

◉湯本より

東北第一の大煙突を有する當驛も大火災以來裝飾振はざりしが昨年秋頃より旅館等も新築を終り町は一層美觀を增し浴客旅客等の入込む者も漸く加はりたれど火災によりて受けたる創痍の全く癒ゆる迄には數年を忍ぶと共に一大奮勵を要

◉泉短信

校長大内勇氏年の若いに似ずよく働けども長たるの器としては少し足らず大に修養して貰いたしと云ふ者あり達見村長に對し政黨上の關係より兎角の非難をなす者あれども頭と腕はたしかな者なり小林藏次氏も亦郡内の名望家なれど此頃は村會の外には頭を出さず一意家業に勉勵し居れり佐藤丈之助田子德治二氏の職務に精勤なる山崎民次郎小泉谷元二氏の鋭氣勃々たる何れも村内の珍たり其他の諸氏の消息は追々

◉東坡の前赤壁賦を石刷にせる墨帖を求めて善しとか悪しゝとか爭ひ居ける人

東坡の前赤壁賦を石刷にせる墨帖を求めて善しとか悪しゝとか爭ひ居ける人

三面文藝

覺え帳（三）

瓢好瓢太夫

父は大事な人の子を預り教導感化すべき堂々たる教育者に有乍ら公用の金品を私消し妻子及び弟妹は平然として官廳の物品を窃切使用しまた其子ば小學校の生徒にして某官吏の金員を窃盜せるも父母叔甥は之を知りて更に譴責訓誡をも加ふる事なき悪むべき盜賊家族は警察署所在の平町に在り西か東かはた何處か其何人の家族なりやは其筋の探偵探を要す若し當局者にして相當の處置を取らずんば吾人斬魔の劍を揮て醜類をして白昼市中に出づる事能はざらしめんなり

盜坊家族

讀者倶樂部

誰でも何でも投書は御隨意但中略

▲何が出るかと辻うら嶋のあけてたかしい投書國（苦足齋）▲種切れだか何だか平町三の三幅對は出なくなつたから今度は一つ石城郡村田子英吉飯野村猪狩文郎大浦村鈴木常之助艶福村長神谷村中野忠治赤井村草野三郎湯本村長壽男（先生）▲思ひ寢の替歌（酔月）▲獨り寢の、辛氣くさゝに閉の戸を、板の枝が、獨り居の、ぬしぢやないかと窓推して、見れば星めが、一つ飛ぶ（粹客）▲我黨の樂園は松月なり飲むも蒸らすも亦食ふも嬢ぐも何と云ふ者なし（中學生）▲萬年屋の姐さんはいつも田町の金鰐屋に居る（情夫こ）▲春ちやん十日の晩はれ樂みたごつて頂戴よ今せい）▲有名なる歌留多熱心家は古松傳次郎君なり（大工）▲代價を拂はないでナイフを買ふなんてソレは罪だよ學生さん（小僧）▲新玉屋の娘は山竹に迷はされて居るわ（四倉生）▲五丁目のたちかさんにも困るわ操さんにのぼせて人目も憚らないのだもの（れ兼）▲丸十の繁ちやんは頗る付の愛嬌もの（客）▲若旦那嫌な眼附でれ客を見力（二丁目）▲萩保は八面獅心だ（変際家）▲松さんはこり性もなく凄いわネー（中屋）▲丈くらべなら横で御出よ小そのちやん（才三）▲れ富さん平町は湯本とはちがいますから除りきれいでもない御顔を二階から出したり本をよむまねを見せびらかすなどは却て物笑ひとなるからた止めなさい（縣社

腐敗青年

石城郡四倉町にて魚商を營み居る綽名山小竹と云ふ青年あり放蕩の血統を承け繼いだわけにもあらねど手にたひぬ怠惰者にて常に賭博はうつ草餅買をする喧嘩口論やらぬ日とてはなく金があれば附近の新玉屋とか云ふ曖昧料理屋に入り浸りスベタ草餅に鼻毛をのばし親爺の資本を持出せしまゝ一文も家に入れざれば年老いた父親は四人の子供をして辛くも飢死せしめずに置くとの事なるが實に呆れはてたる

盜坊家族

三面文藝

覺え帳（三）

瓢好瓢太夫

父は大事な人の子を預り教導感化すべき堂々たる教育者に有乍ら公用の金品を私消し妻子及び弟妹は平然として官廳の物品を窃切使用しまた其子ば小學校の生徒にして某官吏の金員を窃盜せるも父母叔甥は之を知りて更に譴責訓誡をも加ふる事なき悪むべき盜賊家族は警察署所在の平町に在り西か東かはた何處か其何人の家族なりやは其筋の探偵探を要す若し當局者にして相當の處置を取らずんば吾人斬魔の劍を揮て醜類をして白昼市中に出づる事能はざらしめんなり

讀者倶樂部

誰でも何でも投書は御隨意但中略

▲何が出るかと辻うら嶋のあけてたかしい投書國（苦足齋）▲種切れだか何だか平町三の三幅對は出なくなつたから今度は一つ石城郡村田子英吉飯野村猪狩文郎大浦村鈴木常之助艶福村長神谷村中野忠治赤井村草野三郎湯本村長壽男（先生）▲思ひ寢の替歌（酔月）▲獨り寢の、辛氣くさゝに閉の戸を、板の枝が、獨り居の、ぬしぢやないかと窓推して、見れば星めが、一つ飛ぶ（粹客）▲我黨の樂園は松月なり飲むも蒸らすも亦食ふも嬢ぐも何と云ふ者なし（中學生）▲萬年屋の姐さんはいつも田町の金鰐屋に居る（情夫こ）▲春ちやん十日の晩はれ樂みたごつて頂戴よ今せい）▲有名なる歌留多熱心家は古松傳次郎君なり（大工）▲代價を拂はないでナイフを買ふなんてソレは罪だよ學生さん（小僧）▲新玉屋の娘は山竹に迷はされて居るわ（四倉生）▲五丁目のたちかさんにも困るわ操さんにのぼせて人目も憚らないのだもの（れ兼）▲丸十の繁ちやんは頗る付の愛嬌もの（客）▲若旦那嫌な眼附でれ客を見力（二丁目）▲萩保は八面獅心だ（変際家）▲松さんはこり性もなく凄いわネー（中屋）▲丈くらべなら横で御出よ小そのちやん（才三）▲れ富さん平町は湯本とはちがいますから除りきれいでもない御顔を二階から出したり本をよむまねを見せびらかすなどは却て物笑ひとなるからた止めなさい（縣社

腐敗青年

石城郡四倉町にて魚商を營み居る綽名山小竹と云ふ青年あり放蕩の血統を承け繼いだわけにもあらねど手にたひぬ怠惰者にて常に賭博はうつ草餅買をする喧嘩口論やらぬ日とてはなく金があれば附近の新玉屋とか云ふ曖昧料理屋に入り浸りスベタ草餅に鼻毛をのばし親爺の資本を持出せしまゝ一文も家に入れざれば年老いた父親は四人の子供をして辛くも飢死せしめずに置くとの事なるが實に呆れはてたる

あゝ友よ

友よ許し給へ、むかしを思ふの情に堪へず、古き音づれの中より此一書を拔きて、せめてもの心やりとする、幸薄き一人を許したまへ（花守）

今日正午兄が御書得し時の膳のとぶろきむかし過日來の煩悶にまたしても此の事、『予が福嶋に在るは明日か明後日を限りなるべし、その後は遠き北海道の空に走らん……』まことわれは伏しぬ、わなゝく手をはつとめ、憂れる眼を強ひて讀めばあはれ〳〵、『君は予を惡人視し、罪人視し、仇敵視されんことを……』われいかで泣かざらめや、人目も憚らず、實に泣き伏しぬ、あゝ如何なればかくまでも辛き運命の神ぞ、もとよりさある二人とは思ひしかども、かくまでつらき宿世とは思はざりきな、われは兄が所謂罪を知らず、然れども兄よ、われは心を恨む、われは兄に一缺点のありとて親しき〳〵愛敬の兄を捨つるまでの薄情人にはあらずよ、兄よいなみ給ふ勿れ、兄とわれと肉体はこゝ暫し逢ふこと無きも、わが心は終兄が傍を忘れざるべし、祝福と成功とを願ひつゝ、われいかで兄を捨つるに忍びんや、われをしか薄情けき者と見給ひし兄こそ怨めしけれ。

御文いだきて泣伏したりとて詮なし、われは兄を訪ひぬ、慰むる所あらんとて也、而もわれより袖をうるほして、更に泣かしめまゐらせ奉りたる誠に行き甲斐もなきことゝ、つとめて〳〵云ひ出でんとせしも得ず、只むせび、只吐息つきて、嘆きを加へさせ申したる、許させたまへ、日記も何もかも河水に流し給ひて、死に失せ給はんと企て給ひしとや、幸に人のありしかば誠に嬉しかり、あはれ兄うせ給はゞ誰を頼りのわれと見ますや、是よりは決して〳〵夢にもさようなる思ひ起さるまじよ、實に嘆く者には『死』はかり安けく、さながら故郷の思ひあるものなしと聞けり、されども『死』は過去を消滅するものならじ、苦しき〳〵煩悶懊惱を忍びて、過去を償ふの御心こそ尊けれ、乞ふらくは永刼其心にてこそ。

老いませし父君、いぢらしき弟妹を思ひ給ふの兄の胸、誠に察して餘りあり、われは萬斛の涙を惜まざるべし、さぞや斷腸の思ひこそ存せられ、さいへ、父君、弟妹の君達は不變なる仁慈と愛敬とをもて慰めまゐらすべし、遠くに行きたまひそ、遠き北なる蝦夷が島、あるは西の方遙に雲山萬里を隔てたる西藏あたりに行き給うて、心安めんは御心にしもあなるべけれど、故郷の山や川こそ情深からめ。

あはれ有爲轉變の世とは聞きたれど、あまりに劇しき運命かな、たもへは今茲春、わが罪によりて悶え居たる時、兄は此のはづかしきわれを千萬の熱情をもて慰め給ひき、豈に料らんや、今われをして兄に慰籍をたくらしめんとは、かの時、實にや兄は詩に文にわれを慰めて光明に導きたまひにき、……あゝ君よ心強かれ、世の人をあげて背くも、美しき御神の愛は、いやを多く君にかゝらむ』

まこと心強くましませ、美しき御神はいや多き愛を君に下さん、美しく奇しく妙なる自然を友の之よりの兄が御身、いかで淵からざらめや、美しからざらめや、なげきますな。

許し給へ、われは兄を省みざるにしのびず、兄われを捨て給ふともわが魂は常に君がまわりを離れじ、あゝ人間到る處青山あり、徒に泣き徒に悲しみて、深き淵には落し給へ、慰めの言少きを咎めてわが心根をくみたまひてよ、わが筆はなやみゆるにふるはずなりぬ、こゝにて許させたまへ、さらばなり君よ。

廣告

當會是迄石城と名稱致居候處今般磐城と改定致候此段廣告す
追て毎月第二土曜を例會日と定められしも來月より十五日三十日の兩日と變更致候併せて廣告す
明治四十一年三月
磐城國平町字田町大坪雪江方
磐城禁酒會

船來諸石油
炭坑内燈油
諸器械用油
販賣店
磐城平町二丁目
關内市重
（清水屋）

日本石油
寶田石油
株式會社
特約一手販賣店

煙草
荒物
雜貨
大販賣
松植頭商店
平町字長橋町
（電略ツエ）

最上會味噌
田村郡三春町　平町二丁目
醸造元　渡邊平助　大賣捌　白土屋茂平

土管下水瓶
世界の
平二町目
白土支店

精撰牛乳
乳質純良
消毒完全
配達迅速
磐城平町北目町
磐城牛乳舍

産科婦人科
皮膚病花柳病專門
平町字田町
羽岡醫院

内科外科
小兒科診療
平町搖槌小路
院主　市原卯太郎
市原醫院

眼科專門
平町字紺屋町
中島眼科醫院

内科外科
婦人科診療
平停車場前
北郷醫院

内科小兒科
外科婦人科
宅診午前　往診午後　入院隨時
平町
鈴木醫院

内科外科
小兒科
婦人科
平町搖槌小路
磐城醫院
神尾精一

黴毒淋病膀胱病
小兒病專門
雙葉郡長塚
石川醫院
平町磐城銀行裏
同分院

遠藤齒科醫院
口腔病
平町五丁目

同出張所
湯本佐波古館
四ツ倉町字本町

棧營業所

第二十號

毎月三回　八日　十五日　廿五日　發行
定價一部金一錢五厘外ニ郵稅五厘
郵券代用一割增
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地　棧營業社
編輯人高木朝重　發行人吉田鶴次郎　印刷人高城寅雄

讀者論壇

紅會の文明は農に工に其革新を速めあるは來而も商界のみ未蕾を脫せざる嫌ひあり西丸すべきに非ずや殊に番頭制度の如き最も改良の餘地珠雲急務なり聞說當時三丁目某店の番頭は夜番を使はれたる故か無斷出店したりとア、店主の怠慢を解きてより六年未俸給の制なく雲褐を代ゆるの執酬上階深く味ふべし人間勞に

正札引なし
吳服太物
洋裁物類

平町新屋敷
所長　黑木房教
主任　白土龜吉